

ぷらネットこまき

(古牧地区住民自治協議会広報紙)



第51号

古牧だより通算145号

ふくしは人、希望ある未来へ!!

福祉に携わる代表者が一堂に会す (福祉関係団体長会議開催)

2月20日、平成24年度福祉関係団体長会議が古牧公民館で、31名参加し開催されました。

小林部会長の挨拶で始まり、平成24年度の福祉健康部の事業報告が傘木部長よりありました。

また、24年度は特別事業としてやる気支援事業、認知症啓発事業の報告もあり、認知症啓発事業については、劇団「みちくさ」一行が昨年9月から今年2月までの間に、古牧地区内7地区で上演した報告もありました。この演劇はどこの地区へ行っても大人気のようでした。

このあと、各団体長さんから活動報告を受け、次年度の課題や福祉健康部への意見や要望等がありました。

福祉活動は、心と心が通じ合う活動が大事であり、時には隣接区と連携した活動も必要ではないか等のご意見もありました。

また「希望の旅」については、参加したく

ても参加できない人への配慮、いつも出る意見ですが、役員中心の旅にならないよう努力して欲しいとの意見もありました。

最後にまとめとして、福祉事業の一丁目一番地は人です。人は一人では生きていけない、人は人のために生きています。

人生のすべては福祉に関わっています。したがって日常的なつながりが大事です。

平成25年度の古牧地区の福祉事業が、常に光り輝く朝日のように前進し、特に一人暮らしの高齢者の皆様方に心の豊かさ、心の満腹感が得られるような事業になることを期待します。(福祉健康部)

顔の見える関係づくり 古牧地区ケア会議開催

古牧地区の高齢者(障害者)を支える関係機関が、顔の見える関係をつくることを目的に、地区ケア会議が2月25日(月)古牧公民館において行われました。

参加者は自主防災連絡会はじめ、長野市関係部局、和田交番、医療機関、介護事業所、宅配弁当事業者など、総勢70名を超える皆さんが参加し、大規模災害が起きたとき、古牧地区ではどのような問題が生じるのかなど、熱心に意見交換が行われました。

(総務部)



子ども会活動発表会 1年間の活動を発表



2月23日（土）第11回古牧地区子ども会活動発表会が、古牧小学校東体育館において行われました。

子ども会10ヶ条発表のあと、古牧13地区と子ども会長会の発表が始まりました。

それぞれの地区ごとに、発表テーマにそって『夏祭り』や『お化け屋敷』、『クリスマス会』などの楽しかった行事、思い出に残って



第11回 古牧地区子ども会発表会



いる行事などを発表しました。

模造紙や画用紙に見やすいように、文章や写真を貼り、地区ごとに工夫をしていました。

どの子ども達も、はきはきと大きな声で発表をし、皆熱心に聞き入っていました。

日ごろお世話になっている地域の皆様に、感謝の気持ちをこめたあたたかい発表会になりました。

6年生の皆さん、お疲れさまでした。

5年生の皆さんは、4月から中心となり活動がんばってください。（青年育成部）

内場先生の講演会

「糖尿病で寝たきりにならないために」を聞いて

西尾張部保健補導員 内田知恵

2月6日に大岡村診療所の内場廉先生に来ていただき、講演会を行いました。

先生は自ら糖尿病になり、今は透析をしていると話してくれました。

私が一番心に残った話は、自分の父も糖尿病、自分も糖尿病、そして自分の子供達も考えた時、このいまわしい連鎖をここで断ち切らないと、と決心したというところでした。

先生が行った一つとして、食事の摂り方でした。たっぷりの野菜を食べ、それからご飯を食べる。家族も同じ様にした時、息子さんはいやがり、一回目は泣いていて、結局その食事は食べなかったそうです。

親は子供に泣かれてしまうと、自分の信念をまげてしまいがちです。でも、先生も奥様も子供達を「糖尿病にさせない」という覚悟を決めていたから、泣かれてもつらぬきとおせたのだと感動しました。

今年一年通して、活動をしてきた糖尿病にかかわる学習のまとめとして、大変有意義な講演になりました。

どこかで、内場先生のお話を聞く機会がありましたら、ぜひ聞いてほしいと思います。

きっと何かが変わりますよ。



第4回 企画調整委員会（2月13日）から

1 平成25年度事業計画及び予算計画について
各区が実施する事業活動費の取り扱いは、次の事業活動について「活動実施報告書」に基づき、補助金を上限額で支給しますから、区の予算にあらかじめ組み入れておき、各種活動団体の年度当初活動資金の支援をお願いすることに了解されました。

各区が実施する事業	1区あたり上限額	支払い方法
サロン・ふれあい会食 ボラ研修・介護教室	80,000円	全区各 区の口座に 振り込み
健康づくり活動	10,000円	
子育て支援活動	20,000円	
防火・防犯ポスター	10,000円	
子どもを守るパトロール	10,000円	
春秋のごみゼロ運動 河川清掃	8,000円	
アメリシロ防除対策	6,000円	
ルール違反ごみ対応	13地区で 320,000円配分	
不法投棄防止看板設置	13地区で 50,000円配分	
ごみ集積所設置・改修	13地区で 250,000円配分	
古牧地区子ども会発表会 区の子ども会活動 少年少女球技大会	15,000円	
人権研修活動	3,000円	
あいさつ運動	10,000円	

2 会長・副会長等、今後の選任方法及び任期の検討について

平成25年度は、役員任期等の経緯からして改選時期となっているので、早めに選考委員会を設け、次期企画調整委員会で決定するよう承認されました。

3 会長・副会長の活動事務費の改正について

監事（会計監査員）から役員活動事務費は、他地区住自協並みの額にしては、との提言を受けて次のとおり改正することで承認されました。

役職名	現行額	改正額
会長	28,000円	50,000円
副会長	20,000円	30,000円

4 平成25年度の総会（評議員制）の開催日について

平成25年4月21日（日）に開催することで承認されました。

2月13日（水）古牧公民館集会室において開催され、主な議題について次のとおり審議されました。

5 印刷機の更改について（約45万円）

現在使用している印刷機は4年経過しており、100万枚と多稼働による消耗が激しく故障が多発し、また印刷の質も悪化している状態のため、24年度予算の予備費から印刷機更改積立予算に充当して、新機種に更改することで承認されました。

古牧ボランティアセンターの利用状況について

古牧ボランティアセンターの活動については、ボランティアの皆様方のご協力によって順調にセンター運営を図っています。

更にご協力を得るため利用状況をお知らせします。

活動項目	ボランティア紹介の申込機関	要望内容とその対応
ネットワーク活動	古牧各区の福祉関係団体	*お茶のみサロン開催に伴う余興（マジック・オカリナ・創作紙芝居・落語・アコーディオン） 古牧ボランティアで9件対応 他地区ボランティアで11件対応
	古牧公民館いきいき学級	*学級閉校に伴うお楽しみ会の余興（オカリナ・マジック） 古牧ボランティアで対応
	グループホーム あたご施設	*将棋の相手（ふらネットこまきでボランティアを募集） 古牧ボランティア4名で月に1回施設に外向き対応している） *あたご施設の運営委員会に2カ月に1度の出席依頼により、種々要望・紹介件に対応している
	森と木（ワズカフェ）	*折り紙を教えて頂くとともに交流したい 折り紙の出来るボランティアを紹介
	布ぞうりグループ	*作った布ぞうりを寄付したい 古牧公民館に使用してもらおうよう紹介
	福祉健康部	*認知症啓発活動のための劇団編成メンバーボランティア集め 14名のボランティアで公演開始している
	若槻地区の民生児童委員	*「お助け隊」のような組織づくりをしたいのでボランティアを紹介して欲しい 古牧西和田区のボランティア紹介

平林

平林城のロマンと平林

平林副区長 永井与志彦

平林区は古牧地区の北西部に位置し、平林街道（406号線）、安達神社、宝樹院は有名ですが、平林城があった事はあまり知られていないと思います。

町村誌によると、平林城は「東西66間、南北56間、東に本丸、西に二の丸あり、その間に幅20間の内堀、四方に10間の外堀を巡らし」と記録されています。

城主は永禄年間（1558年から同69年）武田信玄の将、原美濃守の居城といわれていました。そして、天正10年（1582年）武田氏滅亡とともに廃城となりました。

昭和初期までは高台は畑、堀は水田で、ある程度城址として名残りがありましたが、昭和18年と44年に国鉄（現在のJR東日本）に買収され、その形態は消滅してしまいました。

本丸の東北隅にあった、飯縄社は昭和23年に安達神社境内にご遷座され、今も区民の崇敬を集めています。

廃城となってから徳川時代の中期に、城跡の石垣は元善町の「随行坊」の前身の石垣に使われ、現在もそのまま残っています。

その後、平林城の史跡を子々孫々に伝えていきたいと、「平林城跡（平成9年3月）」の石碑も建立されています。



平林城跡路図



まちかどアウツ



古牧小の子どもたちが栽培した花を、古牧公民館前で販売していました（3月1日）

古牧地区の世帯数と人口

25年2月1日現在

10,666 世帯

26,230 人

(男 12,924人 女 13,306人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
- 発行者 湯澤 角雄
- 編集 ぷらネットこまき編集委員会
- 印刷 (有)小池印刷

の朝読書で読み伝えていきます。
三月は別れの季節、広報部故松本壽昭部長のぷらネットこまき四十一号の、娑婆鉛筆「がんばれ古牧」を読み返しています。
創刊号から見えない縁に結ばれてかわって参りました。
たくさんのお話を学ばせていただきました。
「あなたに出会えて良かった」そんな「和」の心の広がる古牧地区の発展を心から祈念申し上げます。



夕暮れが遅くなり、日差しが明るくなってなんとなく胸はずむ花の季節となりました。
東日本大震災、福島原発の過酷な事故から二年目となりました。
「夢であってほしかった」星禮子さん（六十六歳）の津波体験の聞き書きを、お茶のみサロンや小学校

会うは別れの始め

(宇都宮 英子)